

【「制限を設けること」の意味を理解しよう】

1. 「論文の書き方：清水幾太郎」

「論文の書き方：清水幾太郎著 岩波書店」の「I 短文から始めよう」という章の中で著者は以下のことを書いています。

・・・枚数が小さく限られていると、否応なしに、読んだものの大部分を思い切って捨てなければならぬ。本質的なものを学び取らねばならぬ。枚数の制限というのは、精神をノンビリした受動性から苦しい能動性へ追い込むための人工的条件である。・・・

2. 「制限を設けること」の意味

「制限を設けること」の意味とは、「内容が明確に伝わる技術文書の書き方」が習得できること、この書き方がレベルアップすることです。

日々のオンザジョブトレーニング^{注1)}での概要版の作成を通したトレーニング^{注2)}とは、A3判の用紙1枚以内など制限枚数以内で仕事（業務）の概要版を作成することです。

注1)：「日々のオンザジョブトレーニングとは」の資料を参照のこと

注2)：「概要版を作成するときのポイント」の資料を参照のこと

例えば、A3判の用紙1枚で概要版を作成するには、自分の担当した業務を整理し概要版に書く内容を絞り込む必要があります。このとき、業務の中で行ったことの大部分を思い切って捨てなければならないこともあります。

枚数に制限がない条件で概要版を作成することは簡単です。業務の中でやったことを羅列するだけで概要版が作成できるからです。これに対して、制限枚数以内で概要版を作成するためにはこのような方法では作成できません。以下の作業が必要です。

①制限枚数以内で概要版を作成するための構成を考える（書き方の第2原則^{注3)}）。

②構成の中に書くべき内容を絞り込む。

③絞り込んだ内容を制限枚数以内で書くための書き方を考える（書き方の第3原則^{注3)}）

これらの作業を通して「内容が明確に伝わる技術文書の書き方」が習得できます。また、この書き方がレベルアップします。制限を設けることで、精神をノンビリした受動性から苦しい能動性へ追い込むからです。

注3)：「『内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則』とは」の資料を参照のこと

「参考図書」

清水幾太郎著、「論文の書き方」、岩波書店、1959年3月17日

以 上